

『一心千里』

永田隆一

走って見れば、
見えてくる



第122回

「雄介君、日本では最近、リーダー待望論が出ている。裏を返せば、リーダーが育っていないということだろう。リーダーは、そもそも育てることができないものなのかも疑問だがね。『リーダーは辺境から生まれる』という言葉がある。小学校の時、ルールを破った」ともない、遅刻もした」とが、そういう人間が大人になって、非合理的な現実を直視して、絶望して、でもその中から、熱意を持って決断しなければならぬリーダーになれるとは思えない。

「グループを率いて、グループの家族の生活の糧も提供し続けるリーダーは孤独でしょうね。子供のころ、いじめや転校

を体験して、社会に出て上司の嫉妬、パワハラ、左遷に耐えて生きてきた人たちの中からリーダーが生まれてくるのかも知れない。」

リーダーは、辺境から生まれる 経営は、事業の鮮度を確認する

「雄介君、大きなビルを建築することが決まるとか起るのですか。たぶん、この事件は氷山の一角でしょう。」

「そうだね。リーダーは経験を通して、様々な価値観と出会い、学習している。だから、懐が深い、そして、小さなことにはクヨクヨしない。仲まじが堂々としている。そういう共通点があるようにも思う。」

「関西電力の原発収斂事件、ひどい話ですね。なぜ今の時代にこんなこ

とすると、住民の反対が湧き上がる。日照権や交通量の増加による児童の安全性、ビル風による被害、はたまた古墳の出土などで、工事が進まなくなる。」

「ここで『さき』という調整が必要になる。うさぎと大きい業者が笑顔と現金金交渉にある。不調に終わると、タンブカーを家の前に違法駐車させたり、ホームレスを

「亮太さん、十分あり実際に起きているらしい。」

「総合電機メーカー、通信機器メーカー、業績から優勝劣敗が鮮明になってきています。」

「起業家やプロの経営

「しかし、ビジネスはリスクテイクが利益の源泉だ。新規事業にベットして、3つに1つが成功すればよい。M&Aだって、3つに1つの成功でよい。それで十分元が取れて成長させている。優秀な銀行員もたくさんいる。経営者ではなくて、アドバイザーとして活躍してもらえばよい。データから判断してもらおう。」

「しかし、銀行員に決断をさせては絶対にダメだ。マーケティングが分

「しかし、銀行員に決断をさせては絶対にダメだ。マーケティングが分

かかっていないうえに、デイスカウトキヤッシュフロアという、現在の事業が将来にわたってこの程度のキヤッシュを生むかという事業価値の自利さができない。既存事業の鮮度を常に確認するのが生きた経営だからね。」

「事業の鮮度ですか。」